

2価鉄+総合微量元素剤「鉄力あくあF14」の特長と使い方

鉄力あくあ F14

Fe 鉄	15000mg/L
Mg マグネシウム	7000mg/L
Mn マンガン	3000mg/L
B ほう素	3000mg/L
Zn 亜鉛	3000mg/L
Cu 銅	750mg/L
Mo モリブデン	300mg/L

液状
希釈用原液

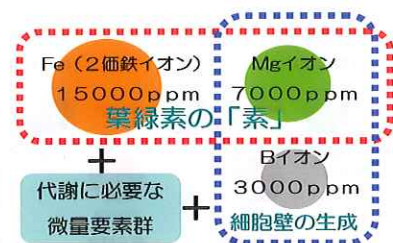
NET 1L 液体微量元素複合肥料

好評の2価鉄錯体剤「鉄力あくあF10」ベースの機能強化剤です。植物内で行われる各種反応：光合成（葉緑素生成）、電子伝達系、カルビン回路、窒素同化、呼吸など）に關与する微量元素群の添加及びマグネシウムの増量により総合的な代謝・生産向上が期待できます。また高温期に欠乏しやすいホウ素を添加し「ホスカル」混和時に細胞壁生成を促進します。

- 成分 2価鉄、マグネシウム、マンガン、ホウ素、亜鉛、銅、モリブデンを配合
- 容量：1リットル（1,100g）

《鉄力あくあF14の効果》

- * 葉緑素の生成（2価鉄+Mgの効果）
- * 代謝・呼吸・光合成能力・窒素同化を向上
- * 細胞壁の生成（B+Mgの効果）
- * 根量増加+根を白く太くする効果
- * 葉色／花色生成や果実の生育を促進



光合成・代謝向上と細胞壁生成に作用

効果事例（トルコギキョウ・ブロッコリー）



トルコギキョウ（左）
F14 区は対照区に比べ葉の色が濃く、しっかり葉幅が出ています。（葉面散布 5,000倍×4回。1週間おき）

ブロッコリー（右）
F14 区は対照区に比べ根量が多く太い。根がきれいに白く仕上がります。（土壌灌注 5,000倍×1）

添加した微量元素群はクロロシス（細胞膜破壊）の原因となる活性酸素（OHラジカル）を消去する酵素に反応触媒として作用します。他の鉄力あくあシリーズと同じ錯体キレート（分子量が小さく比較的安定して吸収利用されやすい）剤です。

- * 「ペンタキープシリーズ」混合時の効果向上（従来品に比べ各種微量元素の添加、Mg増量による）
- * 「ホスカル」混合時の効果向上（ホウ素添加）Ca+Mg+B+Cuの効果

★上手な使い方（ポイント）

- 葉面散布、灌水チューブからの施用どちらもOKです。
- 15日間隔で施用します。
- 好適濃度は5,000～10,000倍です。

★使用上の注意

酸性肥料のため石灰、アルカリ系資材／薬品（石灰硫黄合剤、銅剤）との混用はできません。

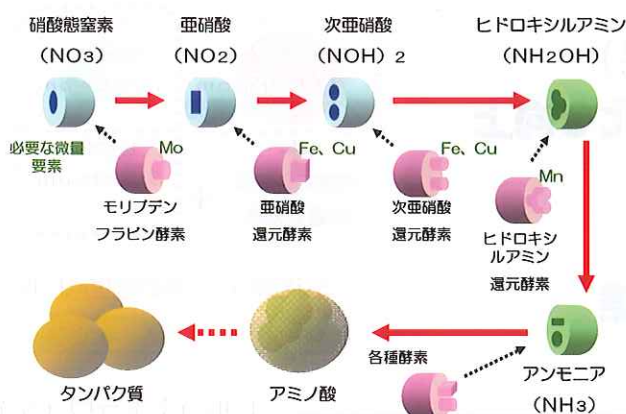
●「鉄力あくあF14」微量元素の働きについて

葉緑素の生成過程について

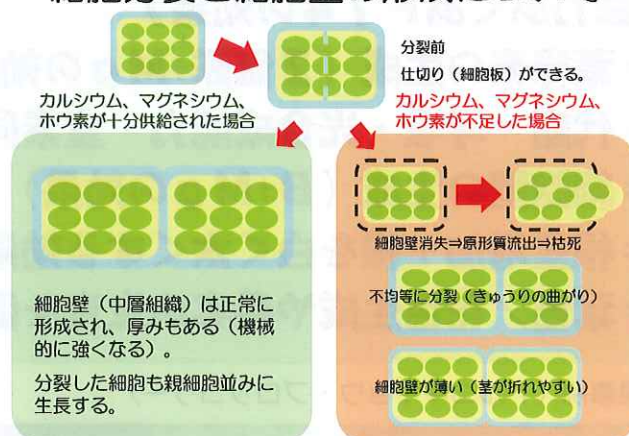


植物で光合成を行う葉緑素は5アミノレブリン酸（ALA）から合成されます。葉緑素の合成過程では **Fe（鉄）** と **Mg（マグネシウム）** が必要となります。「鉄力あくあF14」は吸収利用されやすい錯体の2価鉄（15,000mg/L）に加えMgを従来品より強化（3,000mg/L⇒7,000mg/L）しました。ペンタキープシリーズと混合散布時により効果を発揮します。

植物体における硝酸のアンモニア還元模式図



細胞分裂と細胞壁の形成について



植物に取り込まれた硝酸体窒素は上記のような酵素反応を経て、アミノ酸やたんぱく質に合成されます。反応過程は酵素とともに**微量元素：Fe（鉄）、Cu（銅）、Mn（マンガン）、Mo（モリブデン）**が補酵素として関わっています。また細胞壁（中層組織）の形成にはCa（カルシウム）とともに**Mg（マグネシウム）、B（ホウ素）**が必要になります。これらが不足すると、細胞壁の消失（枯死）、細胞壁が薄くなる（植物がもろくなり、折れたり根腐れを起こす）、不均等に分裂（果実の曲がりなど）を起こします。

●使用上の注意について

使用直前に希釈して速やかに使い切ってください。有機酸を使用していますので、希釈後放置するとカビが発生することがあります。チューブや散布機器に残った液剤をきれいに洗い流してください。またアルカリ資材との混用は避けてください。

●「鉄力あくあF14」Q&A

●「鉄力あくあF10」「マルチケーミン」との違いは？

「鉄力あくあF10」に対しては、特に夏場の葉面散布やペンタキープ系／ホスカルと組み合わせたときの効果向上を狙いました。夏場（混合散布時）：「鉄力あくあF14」／冬場（単剤使用時）：「鉄力あくあF10」の使い分けが出来ます。

「マルチケーミン」に対しては「ネイチャーエイド」など他の高機能剤との混合時に沈殿がおきにくく、希釈散布時にシミや汚れを生じることがありません。葉面散布（混合散布時）：「鉄力あくあF14」／灌注時（単剤使用時）：「マルチケーミン」の使い分けができます。